

新型コロナウイルス感染症 (SARS-CoV-2 による COVID-19) に対する、 医療法人社団白百合会の取り組み

1 班：医療法人社団白百合会理事長
スイング・ビル野崎クリニック院長 野崎 稔

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の都内での急増を受けて各医療機関も独自の感染防止対策を実行しておられると思いますが、医師会長のご指名をいただき、当法人での対応をご紹介いたします。状況はどんどん変わってきているので、対策も変化する場合があります。これは4月17日現在のものです。

1. 声明（当院の診療姿勢を示します。院内外に張り出し、ホームページなどに謳います）

「風邪症状でご心配の場合、事前にご連絡下さい。当院は原則としてきちんと診察いたします。同時に、当院は決してクラスター感染を出さないために、できる限りの対策を実施します。患者様はマスクの着用をお願いします。入室前後の必ず手指消毒をお願いします。」

2. 環境整備

換気：

表玄関のドアを常時開放し、院内では1時間に10分ほどにバックヤードの窓も開放して換気に努めています。スイングビルは本来非常時以外窓は開けられませんが、基本的にセントラルで吸排気を

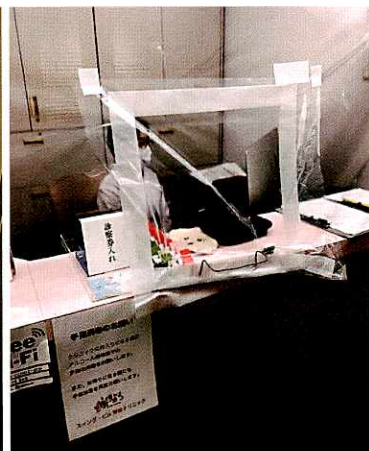
し、一定のビル換気はなされています。ビル診の先生方はこの際に自院ビルの吸気口と排気口など換気環境を再点検してみてください。また扇風機（サーキュレータ）で、強制換気をすることもあります。

受付の飛沫感染防止：

受付の前には飛沫防止目的にビニールシートを設置しました。ホームセンターなどで売っている工事の養生用のシートが安く丈夫で透明度もよく最適です。(1)(2) 厚さ0.2ミリくらい。突っ張り用のポールを立てて、それに梱包用透明テープでしっかりと貼り付けます。そのシートに小窓を開け、保険証などの出し入れをします。この設置は自分するのが面倒な医療機関は、業者に頼んでください。

(1)

(2)



当法人は3つのクリニックがあるので、全部
お願いしました。コスト・仕上がりとも非常
に満足にできています*。受付はマスク着用、
使い捨ての前掛け、場合によってはフェイ
スガードを着用します（後述）。

布製のソファなどは、ビニールカバーで大
きく覆っています。

化学的消毒：

化学的な消毒はエタノールまたは次亜塩素
酸 Na の噴霧消毒を適宜 1 日 4-5 回行います。
アルコールは人に直接、モノには 0.05% 次
亜塩素酸 Na を噴霧します。0.05% 次亜塩素
酸 Na の作り方は自衛隊統合幕僚監部の解説が簡
明です（自衛隊の感染者が非常に少ないのは
さすが）が、要はキッチンハイターを薄める
だけです。（自衛隊、コロナ、新型コロナウイルス
から皆さんの安全を守るために、で検索）

**2. 風邪症状を含めたウイルス感染が疑われ
る方の隔離**

隔離診察室の設置：

風邪症状（咳、鼻みず、発熱）・胃腸炎症状・
味覚障害などがある方は、問診により、一般
の慢性疾患などの患者様と動線を分け、受付
横から窓際ベッド、またはレントゲン室に誘

導いたします。風邪症状の患者様はまっすぐ
奥の丸椅子の方へ、慢性疾患の患者様は右方
向に進みます。(3) またレントゲン室は基本
的に他空間と隔絶されているので、一時的な
隔離室として有効です。PCR 実施医療施設に
送致するにしても、レ線を撮って肺炎の有無
を見ておいた方が良いこと、また、使い捨て
のレ専用不織布ガウンが、一時的な防御服に
なること。入る前に手袋を渡してマスクを大
きくつけて戴ければ、かなり接触感染が防げ
ます。もちろん退室後に次亜塩素酸 Na を噴霧、
清拭。

ゾーニング：

慢性疾患の方は、まっすぐに受付を奥にす
すみ、床に書かれたラインの後ろで待って
いただきます。簡単なゾーニングです。(4)(5)
ここからは診察室に直接入れます。慢性疾患
の患者様は、こうして風邪症状の患者様と動
線が重なりません。

場合によっては医師・看護師は簡易防御服
やフェイスガードをして診療します。患者様の
マスク着用を必須として呼びかけていますが、
マスクなしで入室される方はまずいっしょい
ません。また、外でお持ちになりたい方は、携
帯電話による呼び出しも行っております。

(3)



(4)



(5)



タワーズ内科クリニックは、医療モールの構造上、動線を分けたり個室管理ができないので、時間差で診察しようとしています。武蔵野タワーズの5階ですが、5階まで上る前にお電話いただき、時間予約をしてからの来院です。空間的ゾーニングのみならず時間的ゾーニングも組み合わせていくと、接触機会が非常に少なくなります。(6)(7)(8)

リリーローズメロディチャイルドクリニックは小児科の常として、感染者用の別ルート(感染患児用診察室)が始めから完備されて、診察室、待合、トイレがワクチン接種のみの方などと重ならないようになっています。(9)

(10)また、室内全体が「ラーフエイド」という抗菌加工されています**。

3. 診察について

ウイルス感染症状のある方の診察について、一般の診療所では完全防護服をなかなか着用できませんが(もともと入手できない)、唾液や鼻汁の飛沫拡散を極力減らす事はできます。そのために発熱・咳嗽・接触機会があったかも知れないという、感染を疑わしい方の診察には、短時間で脱着できる簡易防護服が有用です。(11)

(6)



(7)



(8)



(9)



(10)



(11)



簡易防護服のスペックは、ビニールレインコート（100均のものなど試しましたが、セブン・イレブンの500円くらいのが一番良いと思えました。厚さ・丈夫さなどからです）、サージカルマスク2枚（N95マスクがない場合）、顔面のプロテクターはおばちゃんが夏に使うサンバイザーです。アマゾンで15個くらいいっぺんに注文。医師とナース用です。それと手袋。これらを着用するととても滑稽ですが、十分に役立つ。診察が終わったら、手袋は破棄、マスクは洗ってエタノールを十分吹き付けて再利用。レインコートは次亜塩素酸Na噴霧したうえで、帰りに次亜塩素酸Na液に漬け、一晩干します。

看護師は濃厚接触機会が多いので、勤務時間中ずっと簡易防御服を着ていることがあります。そこで、さらに簡便な防御を透明ゴミ袋で作成。なかなか様になってます。(12)

(12)



診察場所は、診察室を避けて、パーティションにビニールでカバーをして飛沫の散逸を防ぐ囲いをつけたようにした「風邪用ベッド」で行います。ベッドは次亜塩素酸Na消毒に耐えられるカバーをしつらえてあります。枕は健診用ロールシートで覆って使い捨てます。(13)

(13)



4. 医療連携

当法人は常に武蔵野赤十字病院、杏林大学附属病院、武蔵野市と密接に連絡を取り、新型コロナウイルス感染が疑わしい患者様はできるだけ早く検査・治療が受けられるように努めています。連携のコツは、焦っていても連携ルールをきちんと守り、連携先が状況を的確に判断できるように情報を詳しく伝えることだと思います。

私たちが頑張っても水際で対応を的確にすることが、拠点病院での医療崩壊を防ぐために重要です。

.....
* 「なんでも OK かも事務所」 濱田裕二氏 070-3283-0322

** <http://54.92.81.39/Lafuado/>